

## 子どもの姿「生きる力」

「生きる力」とは、知・徳・体のバランスのとれた力であり、学習指導要領の基本理念です。四日市市教育ビジョンにおいても、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」によって形成される「生きる力」を備えた子どもを、めざす子どもの姿として捉えています。

### 【確かな学力】

「確かな学力」とは、「基礎的・基本的な知識・技能」と「自ら学び考える力（思考力・判断力・表現力等）」を兼ね備えた総合的な学力をいいます。

・平成21年度全国・学力状況調査結果（対象：小学校6年生・中学校3年生）から、以下のような特徴がわかります。

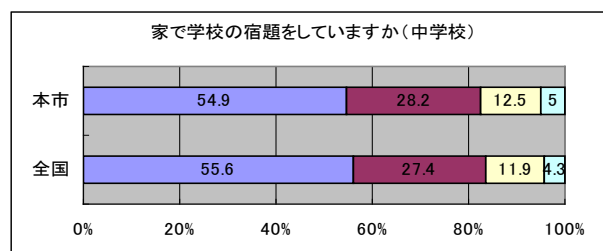
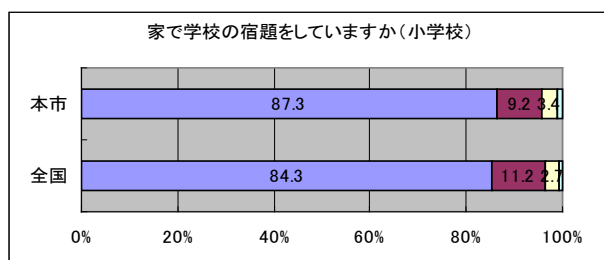
### ○四日市市の子どもたちの学力・学習状況について —全国学力・学習状況調査から—

小学校	国語A（知識）	知識・技能の定着について、課題が一部見られる。
	国語B（活用）	今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に、課題が多く見られる。
	算数A（知識）	知識・技能の定着について、ある程度満足していると考えられる。
	算数B（活用）	今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に、課題が多く見られる。
中学校	国語A（知識）	知識・技能の定着について、ある程度満足していると考えられる。
	国語B（活用）	今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に、ある程度満足していると考えられる。
	数学A（知識）	知識・技能の定着について、課題が一部見られる。
	数学B（活用）	今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に、課題が多く見られる。

・上の表から、四日市市全体の平均正答率は、小中学校とも全国と同様、A（知識）に比べてB（活用）の方が低く、Bで求められる知識・技能を活用する力の基盤となる「書くこと」「読むこと」に課題があるといえます。

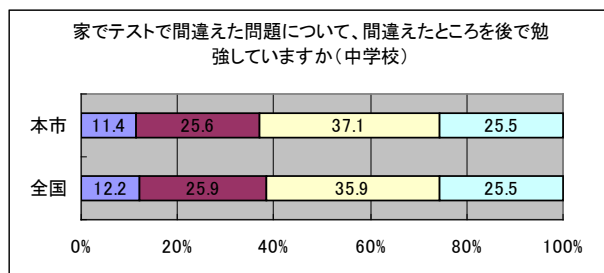
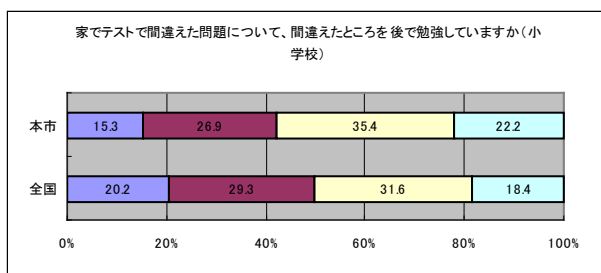
・以下のグラフは、四日市市教育ビジョンが示す「生きる力」の中の確かな学力に係る質問に対して、平成21年度全国学力・学習状況調査（対象：小学校6年生・中学校3年生）の回答状況を全国平均と比較したものです。

【凡例 ■ はい ■ どちらかといえばはい ■ どちらかといえばいい ■ いいえ】

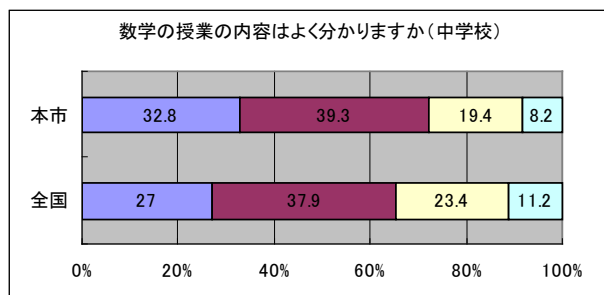
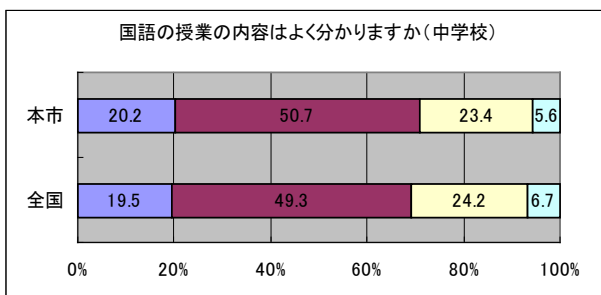


・上のグラフから、家庭での宿題に取り組む姿勢は小中学校とも全国と同じ傾向にあり、小学校ではほぼ家庭学習が習慣化されていることがわかります。

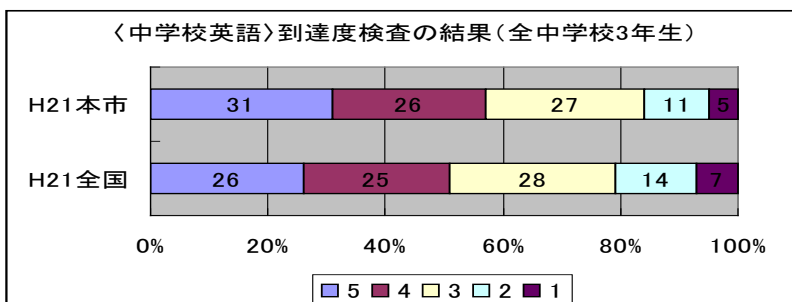
## 第1章 子どもの姿



・上のグラフから、間違えた問題を解決しようとしたり、苦手な教科を克服しようとしたりする姿勢は、全国よりやや低い傾向にあります。



・上のグラフから、国語や数学の授業の理解度は、全国と比べ高いことがわかります。本市独自の施策として、すべての小中学校において国語，算数・数学などの授業を30人以下で実施しています。また，本市では「ICTを活用して学習活動の指導ができる教職員の割合」が90%を超えており，わかりやすい授業づくりのための電子黒板等の積極的な活用が期待されます。



### 【凡例】

- 5：特に十分満足できる
- 4：十分満足できる
- 3：おおむね満足できる
- 2：努力を要する
- 1：一層努力を要する

・上のグラフから、英語の到達度検査で「評定5（特に十分満足できる）」の割合が全国と比べ5ポイント高くなっていることがわかります。

本市の施策として、小・中学校に外国人英語指導員を派遣し，コミュニケーション能力の素地を養うことをめざした英語活動の充実に努めています。

・グラフの他にも，以下のような傾向が見られます。

#### 〈全国平均に比べて高いもの〉

・解答を言葉や式を使って説明する問題は，最後まで解答を書こうと努力した中学生の割合

#### 〈全国平均に比べて低いもの〉

・自分の考えを書くとき，考えの理由がわかるように気をつけて書いている中学生の割合

以上のように，四日市市の子どもたちは，活用力の基盤となる「読むこと」や「書くこと」などに課題があることから，言語能力の育成を充実させるとともに，自らが問題を解決していくための姿勢や能力を育成していくことが必要であると考えます。

第1章 子どもの姿

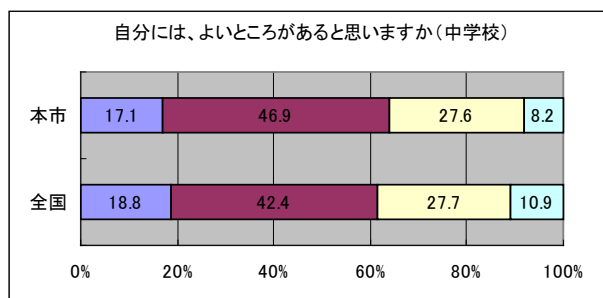
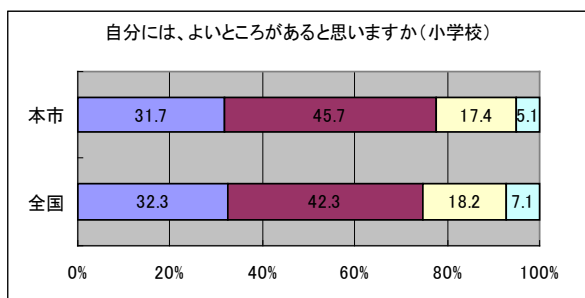
【豊かな人間性】

○四日市市の子どもたちの学力・学習状況について —全国学力・学習状況調査から—

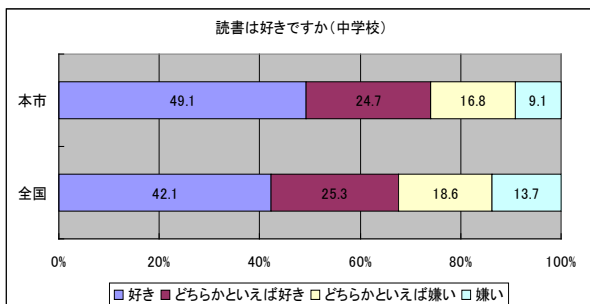
四日市市では、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などを備えた子どもの育成をめざしています。

以下のグラフは、四日市市教育ビジョンが示す「生きる力」の中の豊かな人間性に係る質問に対して、平成21年度全国学力・学習状況調査（対象：小学校6年生・中学校3年生）の回答状況を全国平均と比較したものです。

【凡例】 ■ はい ■ どちらかといえばはい ■ どちらかといえばいいえ ■ いいえ

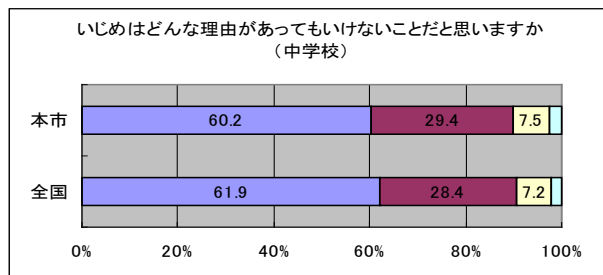
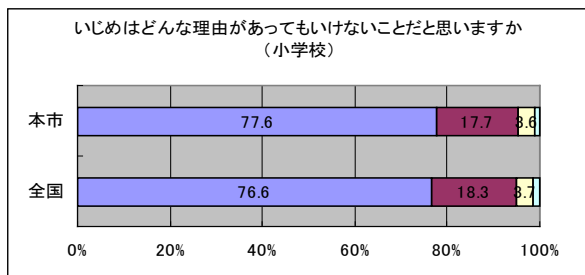
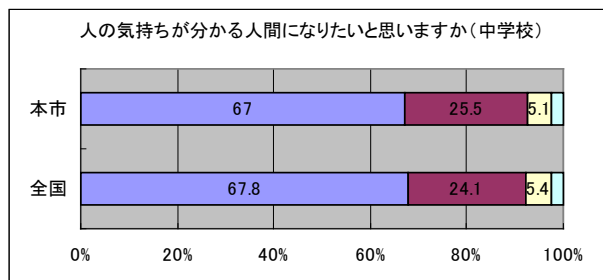
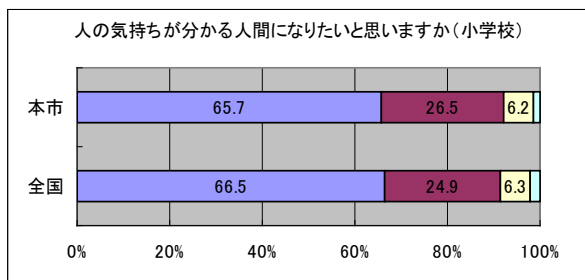


・上のグラフから、肯定回答した児童生徒は全国と比較してやや高い傾向にあります。しかし、「はい」と答えた児童生徒はやや少ない傾向にあることがわかります。



・左のグラフから、「読書が好き」と答えている中学校3年生の割合が全国と比べ7ポイントも高いことがわかります。

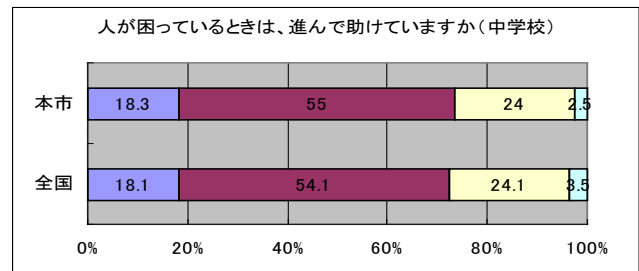
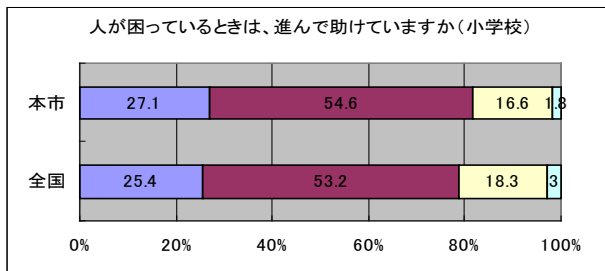
本市の施策として、学校図書館の活性化と読書指導の充実を図るため、小中学校に司書を派遣し、子どもの読書活動の推進および学習支援を行っています。



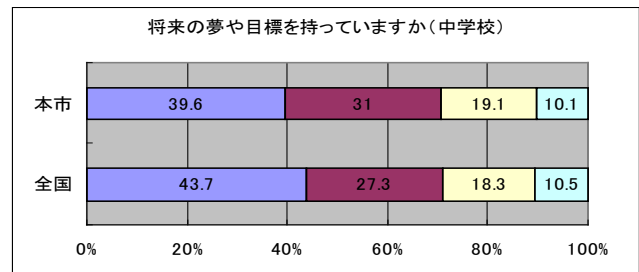
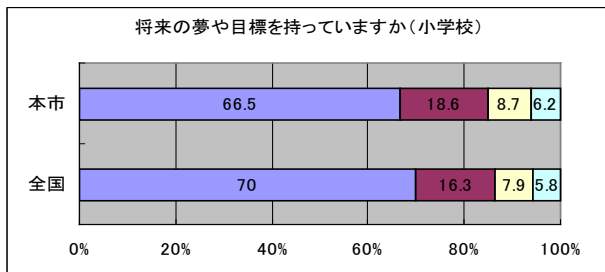
・上の4つのグラフから、小・中学校とも全国と比較してほぼ同じ傾向にあるといえます。子どもたちの自尊感情を高め、いじめを絶対に許さない態度や行動力を育成するための指導の充実が必要です。

## 第1章 子どもの姿

本市の「いじめや不登校」等に対応する施策のひとつとして、すべての小・中学校へのスクールカウンセラー，または心の教室相談員の配置を行い，子どもたちの心の居場所づくりを進めています。



・上のグラフから，相手への思いやりや進んで助けようとする行動力は，全国と比較して小・中学校とも高い傾向にあることがわかります。これからも道徳教育や人権教育の充実をめざしていきます。



・上のグラフから，「将来の夢や目標を持っている」と答えた小学生が全国と比較してやや低く，中学生になるとさらに減少傾向にあることから，小学校からのキャリア教育等を推進していく必要があります。

以上のように，四日市市子どもたちには，質の高い授業や仲間との豊かな体験活動を通して，自尊感情や人権感覚，道徳規範等豊かな感性を身につけていく必要があると考えます。そこに至るまでには，子どもの11年の成長を見通し，就学前・小・中学校が一貫性のある指導体制や支援体制と整えるとともに，関係諸機関との連携をつくることが大切であると考えます。



## 第1章 子どもの姿

### 【健康・体力】

#### ○四日市市の子どもたちの体力状況について

四日市市では、たくましく生きるための健康や体力を備えた子どもの育成をめざしています。以下の表は、平成21年度全国体力・運動能力調査（対象：小学校5年生・中学校2年生）9種目（※1）の調査結果を全国平均や県平均と比較したものです。

小学校 5年生	男子				女子			
	T得点 ※3	21年度 四日市市	三重県	全国	T得点 ※3	21年度 四日市市	三重県	全国
体力合計点 (点)※2	47.6	52.04	52.83	54.19	46.3	51.5	52.8	54.59
中学校 2年生	男子				女子			
	T得点 ※3	21年度 四日市市	三重県	全国	T得点 ※3	21年度 四日市市	三重県	全国
体力合計点 (点)※2	48.4	39.77	40.45	41.36	49.9	47.82	47.12	47.94

※1 9種目：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ、持久走（中学校のみ）

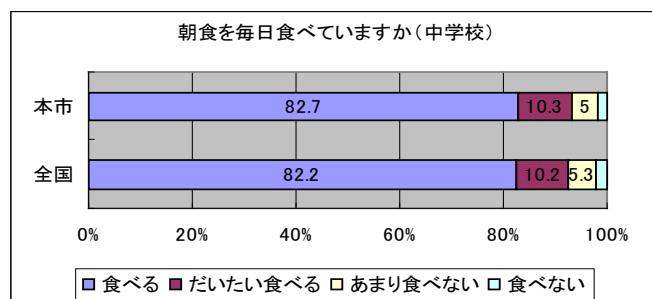
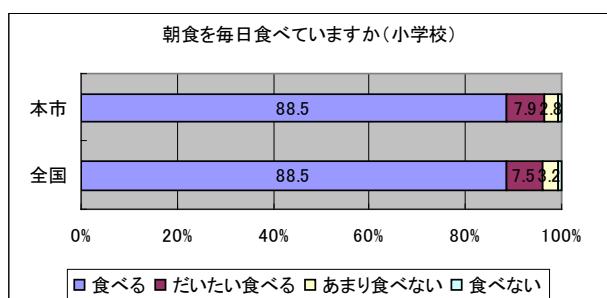
※2 体力合計点：各調査種目の成績を1点から10点到得点化して総和した合計得点

※3 T得点：全国平均値を50として、それに対する相対的な数値

・上の表から、全国の状況との比較において全ての数値が下回っています。中学校女子は平均並と言えます。子どもが目標を設定し、目標達成をめざして運動に取り組み、運動能力や体力をつけていく姿勢を身につけていくことが必要です。

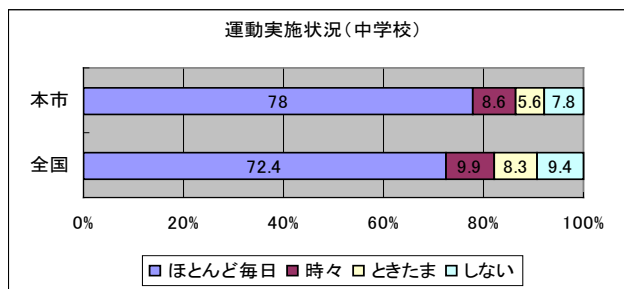
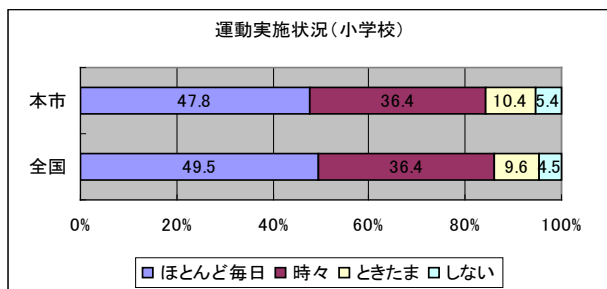
#### ○四日市市の子どもたちの生活習慣や運動習慣について

以下のグラフは、四日市市教育ビジョンが示す「生きる力」の中の健康・体力に係る質問に対して、平成21年度全国学力・学習状況調査および生活習慣や運動習慣に関する質問用紙調査（対象：小学校5年生・中学校2年生）の集計結果を全国平均と比較したものです。

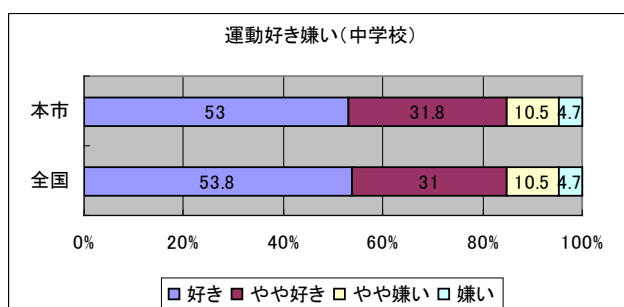
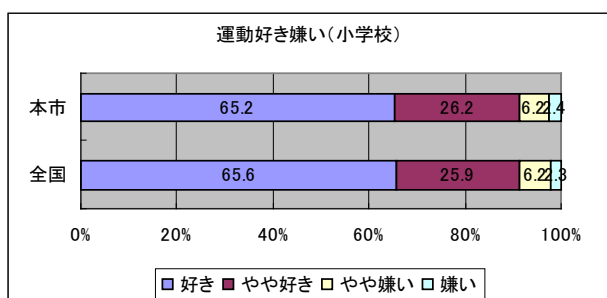


・上のグラフから、全国と比較して同じ傾向にあることがわかります。子どもや保護者、地域への「早ね 早おき 朝ごはん」の啓発活動も含め、必ず朝食を摂取する習慣や規則正しい生活リズムをさらに向上させていくことが大切です。

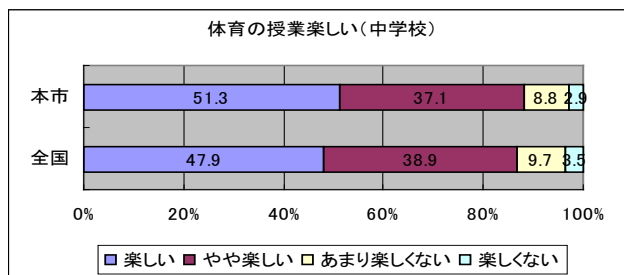
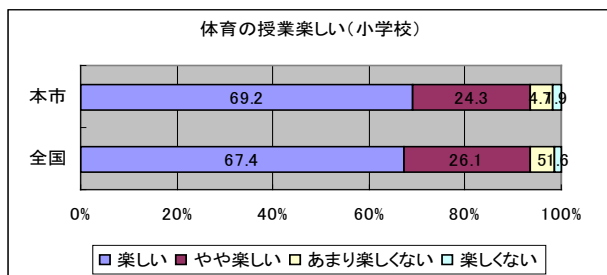
## 第1章 子どもの姿



・上のグラフから、中学校は全国を上回っており、体育の授業や部活動等、普段から運動に親しんでいることがわかります。小学校は全国よりやや低い傾向にあることから、小学校はもとより、就学前からの戸外遊びや運動遊びの充実が必要です。



・上のグラフから、全国とほぼ同じ傾向であることがわかります。進んで体を動かす運動好きの子どもをさらに増やしていくことが必要です。



・上のグラフから、「体育の授業は楽しい」と回答した子どもは全国より上回っており、小・中学校ともに普段から体育の授業に親しめるような授業の工夫がされていることがわかります。今後、体育の授業だけでなく、子どもが日常的に運動に親しむ姿勢を育てていくことが大切です。

以上のように、四日市市の子どもたちには、仲間とかかわりながら進んで運動に取り組み、運動能力や体力を上げていく必要があると考えます。また、生涯にわたって運動に親しむ力や健康意識、安全意識を向上させていく必要があると考えます。

